

胎内市の文化財

Cultural Property of Tainai City



守り続ける胎内市の文化財

清流胎内川の流は大地を潤し、遙か太古の昔から文化が育まれてきました。胎内市の大地に初めて人が住みはじめたのは1万5千年前の旧石器時代で、6千年前の縄文時代前期には県内最古の土偶が、4千年前の縄文時代後期になると現代工芸品にも劣らぬ漆塗りの木製品がつくられ、高度な葬送儀礼も行われるなど文化的に優れた人々が生活していたことがわかっています。

やがて古墳時代になると奈良・大阪を中心に古墳が造られ、ここ胎内市の「城の山古墳」からも、鏡、勾玉、靱(矢筒)などの見事な副葬品が出土しており、大和朝廷と密接な関係を持っていたことがうかがえます。また、『日本書紀』の記述には天智天皇に燃える水(原油)を黒川から献上したことが記され、現在でも日本最古の原油献上地として毎年、「燃水祭」が行われています。

奈良時代に乙の地に創建された乙宝寺は、『今昔物語』にも登場し、1620年に建立された三重塔は国の重要文化財となっています。平安時代末期になると「板額御前」で知られる越後城氏によって、胎内市を中心に荘園開発が進み、新発田市、村上市、関川村にまたがる広大な「奥山荘」がつくられ発展していきます。

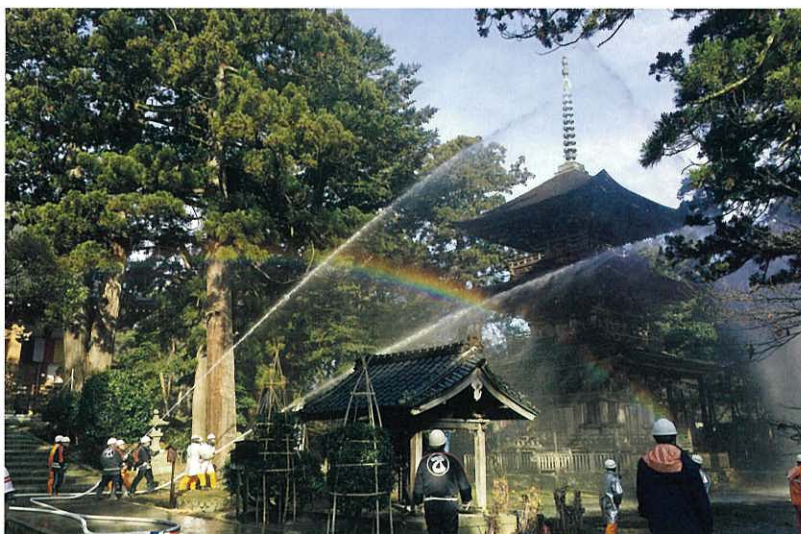
鎌倉幕府に城氏が滅ぼされた後は、戦国武将中条氏が鳥坂城、黒川氏が黒川城などを拠点として活躍し、互いに対立しながらも地域経済を発展させ、それらの痕跡は「国史跡奥山荘城館遺跡」として残っています。

近世になり、黒川は黒川藩柳沢家一万石の宿場町として、中条は幕府領の宿場町、門前町として、共に商業を発展させていきます。また、桃崎浜は北前船寄港地として繁栄し、港近くの神社に奉納された船絵馬などが国重要民俗文化財となり、往時を想わせる廻船問屋などが国の登録有形文化財となって大切に守り継がれています。

胎内市にはこのように先人が大切に守り続けてきた文化財や伝統芸能、天然記念物などが数多くあり、また郷土の誇るべき偉人も大勢います。胎内市の歴史の奥深さをあらためて知っていただき、後世に伝えていただければと思います。

令和2年3月

胎内市教育委員会
教育長 中澤 毅



文化財防火訓練（乙宝寺境内）

1 じょうのやま ごふん
城の山古墳 大塚



4世紀前半に築造された直径約39メートルの円墳。前期古墳時代のものとしては、日本海側最北端に位置する。2012年から主体部の発掘調査が行われ、全長8メートル、幅約1.5メートルの舟型木棺から、ヒスイ製の勾玉(まがたま)、矢を入れる筒「鞞(ゆき)」、直径約10センチの中国製の銅鏡「盤龍鏡(ばんりゅうきょう)」、弓につける国内最古の両頭金具、鉄製の大刀(たち)等大和政権と深い関係がうかがわれる数多くの副葬品が出土した。中でも菱形紋鞞は出土例が少なく、滋賀県以北では初の発見である。

平成31年2月26日 史跡名勝天然記念物

2 おつぼう じ さんじゅうのとうふ むな ふた
乙宝寺三重塔附棟札一枚 乙 乙宝寺



この三重塔は、村上城主村上忠勝が願主となり、慶長19年(1614年)起工、元和6年(1620年)の村上城主堀丹後守直奇のとき完成した。棟梁は京都の小島近江守藤原吉正。棟頂の九輪に、貞享年間(1684~87年)の再興の刻銘がある。塔の建築様式は、純和様の三層塔婆で、内外とも絵様・繰形等装飾をはぶき簡素であるが、全体の形が荘重で、しかも均衡がうつくしく、周囲の老杉と調和して重要文化財としての風格を示している。

大正12年(1923年)特別保護建造物に

指定され、昭和26年~28年に解体修理し、往時の姿に復元された。

大正12年3月28日 特別保護建造物

昭和25年8月29日 国指定建造物

3 おくやまのしょうなみつきのじょうえ す
奥山荘波月条絵図並びに附帯文書3通



絵図は、三浦和田一族間所領相論に関連して作成されたもので鎌倉末期のものと考えられている。紙本着色、縦30.2cm、横53.3cm、端々

が破損しているが、三浦和田氏文書(建治3年4月28日付・高井道円讓状正文・案文・領家年貢散用状)とともに巻物仕立となっている。

絵図には、太伊乃河(胎内川)を挟んで条の境界、商品流通を示す七日市・高野市の市場名、街並・鋳物師等の記載もあり、中世東国荘園の実態を具体的にうかがうことの出来る貴重な資料である。

昭和54年6月6日 国指定重要文化財「古文書」

4 おくやまのしょうじょうかん い せき
史跡 奥山荘城館遺跡

国指定史跡奥山荘城館遺跡は、中世東国荘園の姿を今に残すものとして、昭和59年10月3日に江上館跡(本郷町)・鳥坂城跡(羽黒)・倉田城跡(関沢)・野中石塔婆群(野中)・小鷹宮境内地(村松浜)の5地点が指定され、次いで平成6年3月30日に韋駄天山遺跡(平木田)・蔵王権現遺跡(蔵王)・黒川城跡(下館)・臭水油坪(塩谷)・金山城館遺跡(新発田市金山)の5地点が追加指定された。平成18年1月26日には、「坊城館跡」(西本町)及び「古館館跡」(古館)の2遺跡が、平成23年2月7日には鳥坂城跡の山麓に広がる戦国期の遺跡群が新たに追加指定された。

4-1 え がみやかたあと
江上館跡 本郷町



奥山荘惣領地頭である中条家の15世紀代の居館跡と考えられる。極めて土塁の遺存状態がよく、昭和37・38年、平成3~8年度に発掘調査を実施し、それに基づいて史跡整備がなされ、平成14年度から「奥山荘歴史の広場」として開園している。傍らには奥山荘歴史館も併設され、生涯学習の場を提供している。

昭和59年10月3日 国指定史跡

4-2 とっさかじょうあと
鳥坂城跡 羽黒



鎌倉時代初期に城氏が最後に立て籠もった「鳥坂城」として、鎌倉幕府の正史『吾妻鏡』にでてくることで著名。かの「板額御前」が奮戦したのは、この城である。現在みることができる城跡は、室町時代の15世紀後半以降に中条氏によって築かれたものと考えられる。遺構は、尾根先端の6条の堀切に区切られた郭群や20段以上に及ぶ連続段切からなる山上の部分と、土塁・堀に区切られた麓の「宮の入」の居館群等からなる。中条氏の戦国時代の本拠地。

昭和59年10月3日 国指定史跡 (平成22年11月追加指定)

4-3 くら たじょうあと
倉田城跡 関沢



関沢の現集落を見下ろす尾根の先端上に築かれた山城。堀切・段郭等があるが、全体で150mと小規模であるため、集落あるいは寺院に附属する山城と思われる。

昭和59年10月3日 国指定史跡

4-4 の なか せき と う ぼ く ん
野中石塔婆群 野中



4基の板碑からなる石製の供養碑群。大型の2基には阿弥陀三尊を刻み、小型の2基には地藏菩薩(力)を刻んでいる。内小型の1基には永和四季(1378年)銘が認められ、外のももその前後のものと考えられる。これらは塚上に置かれているため、お墓である可能性もある。曾我禅師の伝説も残る。

昭和59年10月3日 国指定史跡

昭和59年10月3日 国指定史跡

4-6 い だ て ん や ま い せ き
韋駄天山遺跡 平木田



平野部の独立丘陵頂部に営まれた中世墳墓。昭和29年の発掘調査で多くの骨壺や石塔が出土した。この場所は、中世文書にでてくる「村上山」と思われ、奥山荘北条の地頭である黒川氏に関する墓地と考えられる。整備され、史跡公園になっている。

平成6年3月30日 国指定史跡

4-8 ざ おう こん げ ん い せ き
蔵王権現遺跡 蔵王



蔵王山に祀られた蔵王権現は、黒川氏代々の祈願所として崇拜され、多くの宝物が寄進されている。蔵王権現堂・山城・前立堂・役行者堂、金光山全金寺跡等が残り、標高470mのブナ原生林に囲まれ森閑とした中の修験遺跡として知られている。

平成6年3月30日 国指定史跡

4-5 こ たかのみやけいだい ち
小鷹宮境内地 村松浜



奥山荘を分割した文書に、荘園の境の目印としてでてくる。小丘上にある湯殿山碑がそれを示す榜示石といわれる。

昭和59年10月3日 国指定史跡



4-7 くろかわじょうあと
黒川城跡 下館



下館要害山(300m)の尾根上にある広大な黒川城は、黒川氏の本城で、中条氏の鳥坂城に対応するもの。自然の地形を巧に利用し、要所を堀切りで絶ち、山腹には腰郭、尾根にはさじき段を多く配し、中世山城の

形がよくあらわれている。居館跡の一部が麓に残る。

平成6年3月30日 国指定史跡

4-9 くそうず あぶらつぼ
臭水油坪 塩谷



中世の奥山荘波月条近傍絵図や古文書に「久佐宇津条」「くさうつ」と臭水(くそうず)に由来する地名が記され、日本最古の原油湧出地といわれている。現在も油坪が多く残り、黒川石油公園として整備され、記念館も併設され、毎年

燃水祭が行われている。

平成6年3月30日 国指定史跡

4-10 ほうじょうやかたあと
坊城館跡 西本町



鎌倉時代後期(13世紀後半～14世紀前半)の館跡で、60数m四方の屋敷地を区画する溝や大規模な建物が何棟も発見され、大量の土器(かわらけ)、青磁等の高級中国製磁器等がみついている。これらから坊城館跡は、当時最も格の高い居住者である地頭＝

三浦和田一族の屋敷跡であると考えられる。鎌倉時代の地頭屋敷が室町時代の武家居館(江上館)の南方200mに位置していたことが判明した。

平成18年1月26日 国指定史跡

ふるだてやかたあと
4-11 古館館跡 古館

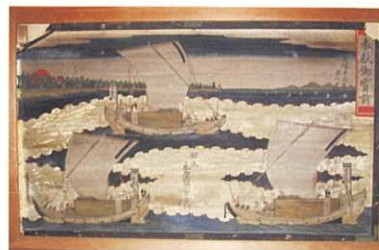


郭内6,700㎡という非常に大きな館跡で、土塁に折れを伴う不整形居館。土塁は、郭内から2.5～3.8mと非常に良好に遺存しており、周囲に水堀がめぐらされている。

これまでは外形から、江戸時代に造られたのではないかとわれていたが、平成16年度の確認調査の結果、主体的な時期が15世紀代であることがわかる。そして、本館跡を特徴付ける非常に良好な土塁は、15世紀末頃に現在の規模となったと考えられ、中世の居館であることが証明された。

館主は、文献や所在地からみて三浦和田一族の高野家と思われる。
平成18年1月26日 国指定史跡

あらかわじんじゃほうのうもけい わせんおよぶなえま
5 荒川神社奉納模型和船及び船絵馬 桃崎浜



桃崎浜の荒川神社の奉納された模型和船は、裏日本で活躍した北前船(和船)の正確な模型の雨船と日和船とよばれる二隻。雨船は、明和5年(1768年)の制作で全長356cm、幅78cm、高さ43cm。日和船は嘉永3年(1850年)の制作、全長348cm、幅78cm、高さ52.5cm。いずれも当浜の廻船問屋三浦関右衛門が奉納したもので、二隻とも荒川神社祭礼時シャギリ船として用いられている。

船絵馬の奉納点数は86点(内指定85点)で、天保8年(1837年)から明治11年(1878年)までのものが69点ある。奉納者のほとんどが荒川湊の船主・船頭たちが航海の安全を祈ったり、祈願達成のお礼として奉納したもので、幕末期から近代にかけての湊の繁栄をうかがわせる。桃崎浜文化財収蔵庫に収蔵展示されている。

昭和45年7月30日 国指定重要文化財「有形民俗文化財」

6 ニホンカモシカ



ニホンカモシカはウシ科ヤギ亜科の動物で、原始的な形態と社会構造をとどめているため、生物学的に貴重な種とされている。1955年には特別天然記念物に指定され、保護、保存が図られている。

胎内川流域の森林地帯に

生息し新潟県地域の特徴である白っぽい灰色の獣毛をしている。
昭和30年2月15日 国特別天然記念物

7 イヌワシ



おもに北半球の山岳地帯や開けた草原地帯に生息する大型の猛禽類。日本でも北海道から九州の山岳地帯に生息していることが知られていますが、その生息状況は危機的状況に置かれています。平成5年に国内希少

野生動物種に指定されている。

昭和40年5月12日 史跡名勝天然記念物

おっぽうじ べんてんどう
8 乙宝寺弁天堂 乙 乙宝寺



乙宝寺大日堂境内の池中の小島に建てられた江戸初期の作と見られている。外観は、桁行3間、梁間2間、4柱造りで屋根は茅葺、堂内にある厨子は、小規模であるが、いずれも極彩色で施してある。また堂内三方の壁板には、豊かな色彩で竹林が描かれた跡があり、桃山時代の特色を失わない江戸初期の作品と思われる。

昭和30年2月9日 県指定有形文化財「建造物」

しほんちやくしよくおっぽうじ えんぎえまき
9 紙本着色乙宝寺縁起絵巻 乙 乙宝寺



この絵巻一巻は、乙宝寺の創建由来を詞と絵で描いたもので、詞は六段、絵七段からなり、長さ15mに及ぶ。

谷文晁の奥書によれば、文晁及びその一門社中10名で総力をあげて文化7年(1810年)に模写した一大力作であることが分かる。絵は毛筆単彩、室町時代古写本の趣をよく伝え、その時の写本ではただ一つしか現存していない。乙宝寺記録に上杉家より奉納とある。

昭和44年3月25日 県指定有形文化財「絵画」

10 くまの わか みやじんじやくうでん ふむなふだ いちまい
熊野若宮神社宮殿附棟札一枚 本町



宮殿



棟札

熊野若宮神社は、建久3年(1192年)奥山荘地頭平宗実(三浦和田氏)が領内総鎮守として、紀伊熊野本宮から一王子の宮を勧請し、創建した社と伝えられる。慶長3年(1598年)石真河原常楽地(西本町)に移遷し、さらに元禄3年(1690年)現在地(本町)に遷座された。本殿の宮殿は、棟札と宮殿内の墨書によって遷座造営年が分かる。宮殿は一間社流造り、こけら葺き、素木造りで一部彩色が施されている。全体に直線的意匠で固さが目立つが、均整のよく取れた絵様、彫刻等に元禄の手法がよく表現されている。
昭和52年3月31日 県指定有形文化財「建造物」

11 ほっしょうじんじやくうでん
八所神社宮殿 乙



八所神社は、大同2年(807年)創立、市川八所大明神と称し、奥山荘黒川条内乙郷44カ村の総鎮守として崇敬されてきた。現在の宮殿は記録に「元和六年庚申宮殿建立、大工黒川 十二天村本間空之助曲尺也」とあり、元和6年(1620年)に建立されたことが分かる。身舎桁5尺、梁間4.5尺、向拝の出4尺の1間社流造りで一

見にして手筋の良さを感じさせる。
平成4年2月20日 中条町指定
平成5年3月30日 県指定有形文化財「建造物」

13 てっせいさいとうぼち
鉄製柴燈鉢 蔵王 金峰神社



金峰神社(蔵王権現)の宝物。鉄製で口縁は反りあがり、口縁部、胴部、底部に数条の玉線を巡らし、胴部に「金光山高全寺旦那仙阿元徳3年」の銘文がある。元徳3年(1331年)黒川茂実の寄進。
昭和29年2月10日 県指定有形文化財「工芸品」

12 こんどうせい けまん ふぎよくぼん に まい
金銅製華鬘附玉幡二枚 乙 乙宝寺



乙宝寺の金銅製華鬘は黒川盛実等が寄進したもの。高さ22.7cm、幅26.4cmの金銅板に唐草を透し彫りにした仏殿内の荘厳具である。表に「大永4年(1524年)」裏に「平朝臣盛実」の刻銘があるもの一枚、「大永6年(1526年)」、「天文7年(1538年)」の刻銘のもの各一枚がある。

玉幡は金銅製のもの2枚で「大永三年癸未六月三日乙宝寺」の刻銘がある。
昭和27年12月10日 県指定有形文化財「工芸品」

15 もく そうえんのぎょうじや さ そう
木造役行者坐像 蔵王 金峰神社



金峰神社の木像で、杉の寄木造り。右脚を踏み下ろした半跏像で頭に冠を載せ、袈裟を着けている。たくましい骨格であるが、表情は穏やかである。鎌倉時代の作といわれる。
昭和60年3月29日 県指定有形文化財「工芸品」

14 きん ぶ じんじや わにくち
金峰神社の鰐口 蔵王 金峰神社



永享8年(1436年)黒川氏実の寄進によるもので、「越後国蒲原郡奥山庄大旦那朝臣氏実・黒川氏一族の名、如意輪権現・金光山鰐口・永享八年」の銘記があり、歴史資料としても重要である。当時奥山荘内で鑄造されたものと思われる。

昭和57年3月26日 県指定有形文化財「工芸品」

16 わけやち 分谷地A遺跡 縄文時代漆製品 熱田坂



分谷地A遺跡は、胎内市を流れる胎内川左岸標高100mの熱田坂地区に位置する。調査の結果、住居、墓地、廃棄場等の遺構や、植物の採集に関連した多くの磨石や石皿類、狩猟に関連した尖頭器や石鏃、漁撈に関連した石錘や土錘等が出土した。また当時の人々の精神文化を示唆する土偶や石棒・装身具類もみつかった。

現在の美術工芸に劣らない優れた縄文時代後期の漆製品が35点発見され市指定文化財に、内21点が県指定文化財となる。

平成15年2月28日 県指定有形文化財「考古資料」

18 くらかわ はったんがや 黒川の八反榎 下館



下館の黒川氏居館跡地にあり、かつて2本の親株(暖地性のカヤ)から枝を派生し、更に分枝が地面をはい(伏条更新)、根を生じ、一反歩(10アール)にも及ぶ広がりを見せる。八反ガヤの名で呼ばれ、秋にはカヤの実が鈴なりに実る。

昭和27年12月10日 県指定記念物「天然記念物」

20 おおなみいし 夏井の大波石 夏井



この波石は今から2億年前、太平洋の海底深くでプランクトンや泥が交互に層をなし、地殻変動によって波のように曲がってつくられた珪質岩である。地質学上貴重なものである。大波石のほかにも夏井川上流に波石の巨岩が転石として存在する。

昭和46年12月1日 黒川村指定

平成17年9月1日 市指定文化財「天然記念物」

平成22年3月23日 県指定記念物「天然記念物」

22 にげん ちゃや いせき 二軒茶屋遺跡出土品 110点 黒川



土器



石器



土鈴

縄文時代前期前葉の土器が多量に出土している。石器では、石鏃、石錐、石槍、篋状石器、石匙、スクレパー、ピエス・エスキュー、石斧類、磨石、タタキ石、砥石、クボミ石、石皿がある。球状耳飾の製作に伴う、未製品資料もみられる。このほかに、県内最古の土偶や、日本最古級の土鈴等縄文時代の祭祀を考える上で貴重な出土品もみられる。

平成25年3月26日 県指定有形文化財

17 わけやち 分谷地A遺跡 弥生時代再葬墓出土品 熱田坂



日本北限の弥生時代再葬墓。平成12年度、分谷地A遺跡弥生時代の調査では、今からおよそ2,300年前につくられた8基の再葬墓から15個体の壺や甕、石器が出土した。再葬墓とは、弥生時代前期から中期中ごろまでの短い間にみられる特殊な墓のスタイルで、死者を埋葬し一度白骨化させた後、再び骨を壺等の容器に収納して埋葬するもの。全国的にみても発掘例は少ない。8基の墓には、それぞれ模様の異なる大形の壺や甕が埋設され、現在の愛知県を中心に分布する水神平式土器の流れをもつもの、ベンガラで赤く彩られたもの、人骨の可能性のある骨片が土器内部からみつかったもの等もある。このうち21点が県指定文化財となる。

平成15年2月28日 県指定有形文化財「考古資料」

19 じもと 地本のミズバショウ群落 地本



高山湿地に自生する多年草本であるミズバショウが、標高8m、海辺より2kmの面積1.4haに2万株近い群生をしている。

冷たい伏流水が湧き、ハンノキの大木が茂っている。開花は3月下旬から4月中旬。

昭和38年3月22日 県指定記念物「天然記念物」

21 黒川のくそうず 下館(塩谷)



日本書紀、天智天皇7年(668年)、原油(げんゆ=くそうず)を献上したのは黒川といわれ、日本最古の原油湧出地である。太古から原油が湧き続け、多くの坪跡が残る。明治6年にイギリス

人シンクルトンが指導して掘った油井(井戸)も残り、黒川石油公園として整備され、記念館も併設している。

平成4年3月27日 県指定記念物「天然記念物」

23 金刀比羅神社本殿 村松浜



この神社は、村松浜の廻船問屋平野安之允の建立によるもので讃岐の金刀比羅神社の分霊である。本殿は天保6年(1835年)に完成した。天保年間の飢饉の際平野安之允は救済に力をつくした。このため、村民は金刀比羅神社建立の労働奉仕を引き受け、飢饉の時の恩義に報いたという。

社殿は小規模ながら、見事な彫刻で飾られ、砂丘松林の環状池に調和して景観も美しい。

平成5年7月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「建造物」

24 乙山大日堂建立地固之真景図 乙 乙宝寺

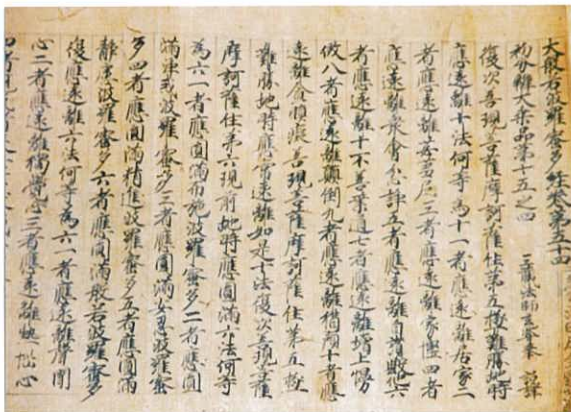


この絵図は、昭和12年(1937年)2月5日不慮の失火によって焼失した乙宝寺大日堂「寛保2年(1742年)3月14日造立の手斧立て、延享2年(1745年)5月11日上棟、同年7月10日完成」の地固め作業を描いたもので、当時の信仰にもとづく人

びとの奉仕作業の様子が具体的に描写されている。風俗、風習と、門前の様相も知ることができる。

昭和50年5月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「絵画」

25 大般若波羅蜜多經 乙 乙宝寺



この経典は、大般若経六百巻の内の一巻である。装丁は、卷子装で経軸は朱頂黒漆塗切軸の合軸を用い、裏打されている。淡墨罫の界線の中に一行十七字詰で書写されている。主題・尾題のわき、经文の行間に「紀州池田庄金剛寺常住」の印記がある。「紀州池田庄」は現在の和歌山県北部にあった荘園で、「金剛寺」は同荘園内の三谷村にあった可能性が高い。本経典は平安末期に成立したものと考えられる。

平成15年9月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「書籍」

26 石動社神明社祭礼 幟 鼓岡

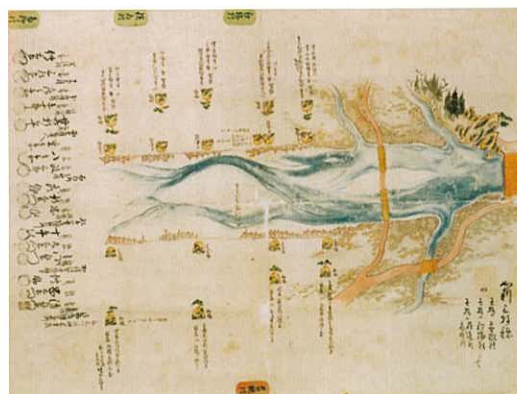


この幟は、天保13年(1842年)に越後出身の書家巻菱湖が揮毫したものである。

石動御祭礼と神明社御祭礼の二本で、このような大幟のものは珍しい。巻菱湖晩年の円熟した筆跡がうかがわれる。

昭和59年4月2日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「書籍」

28 胎内川普請絵図並びに附帯文書 並槻



この絵図は寛政11年(1799年)胎内川兩岸の4ヶ村の水除普請が洪水の都度破堤するため川幅を広げるに当り作成されたものである。絵図の書き込みから3枚作成され、並槻村・江端村・横道と高野両村で各1枚宛を保有したことが分かる。絵図に定式塚・控塚・高場等それぞれ目当や、流域の景観、普請場所の状況がよく描かれている。この絵図は国の重要文化財の「波月条絵図」と同一地域を示す貴重な資料である。

昭和49年4月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「古文書」

27 林大学頭信敬書掲額 東牧寺



江戸時代の儒教者林大学頭信敬の書いた「式輪転」の額で、高野松平志摩守(旗本三千石)が1789年韋駄天神社に奉納した櫛の一枚板。

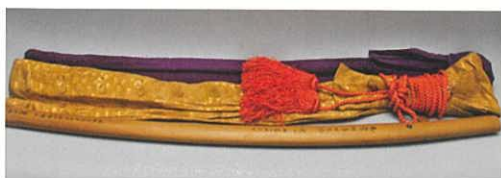
昭和57年4月1日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「歴史資料」

29 かげぼとけ 懸仏 蔵王 金峰神社



応永11年(1404年)に五代城主黒川義実が寄進した。金峰神社の宝物で、直径66cmの銅板に、蔵王権現像を浮き彫りにしている。
昭和50年12月12日
黒川村指定
平成17年9月1日
市指定有形文化財「工芸品」

31 刀剣 胎内市美術館



長さ69.7cm、反り2.1cm、形状は鑄造、庵棟、磨上げながら腰反つき、中鋒延びごころとなる。佩表の茎先き近く棟寄りに、大振りに「光忠」の二字銘がある。
平成8年4月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「工芸品」

33 だいじょういん きょうづつ 大乘院の経筒 鼓岡 大乘院



大乘院に伝わる経筒は六角幢形経筒の中心筒で、大和国住円蔵坊の奉納による。身上部に如来坐像三尊と銘文が刻まれている。室町時代のものといえる。当時修行僧が当地方に多数参籠したことが推察される。
昭和46年12月1日
黒川村指定
平成17年9月1日
市指定有形文化財「考古資料」

35 むなふだ 棟札 蔵王 金峰神社



再興別当眞城院内海権別当経遍
別当代官中山彦左工門家久
大工佐藤十助正次権大工
永禄五季壬戌九月九日
大檀那平朝臣黒河竹福丸
代官西村□実□

永禄5年(1562年)大旦那平朝臣黒河竹福丸(九代黒川実氏)が蔵王権現堂を修築した時のもので、歴史資料として貴重である。
昭和50年12月12日
黒川村指定
平成17年9月1日
市指定有形文化財「考古資料」

30 かげんけい 華原磬 蔵王 金峰神社



金峰神社の宝物。華原磬は昔、支那より伝わった楽器の一種で、法会の始まりを知らせる打楽器。黒川氏一族が奉納したと伝えられる。
昭和50年12月12日
黒川村指定
平成17年9月1日
市指定有形文化財「工芸品」

32 つづみおが きょうづつ 鼓岡の経筒 鼓岡



鼓岡地区内の姫塚から5点発見され、室町時代の弘治年間(1555~1558年)と推定される。讃州住南照坊の奉納による。刻銘のある中心筒と4つの経筒からなりたっている。末法思想により経典を後世に残し救済を求めた。
昭和46年12月1日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「考古資料」

34 おぼほうじ とうしんそ 乙宝寺の塔心礎 乙 乙宝寺



安元2年(1176年)城助永の伯父宮禪師が境内の地下から発掘したものと『乙宝寺縁起絵巻』に伝えられている。この塔心礎は、直径2mの花崗岩製の二重孔式で初重の径は66cm、深さ30cm。二重の径は23cm、深さ15cmで初重の側面はよく磨かれている。7世紀末ころから奈良朝初期の白鳳様式と考えられ、乙宝寺建立年代推定に有力な資料である。現境内の六角堂床下に遺存。
昭和48年4月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「考古資料」

36 むなふだ 棟札 蔵王 金峰神社



元和7年(1621年)村上城主堀丹後守直奇が蔵王権現堂を改築した時のものである。
直奇は元和4年(1618年)に長岡から入部して新発田開発を奨励し、荒地を切り開き、寺社への寄進を行った。
別当が代々相続され、金光山高全寺を開山した元祖の長尊より21代続いたことが記されている。
昭和50年12月12日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「考古資料」

37 ろくひちに き ぼくしょせき くようとうぼ
六七日忌の墨書石供養塔婆 下館



天文11年(1542年)に造立された六七日忌の供養塔婆で種子の「ユ」は十三仏信仰における本地仏弥勒菩薩の種子で県内でも発見例は少ない。
 昭和57年4月1日
 黒川村指定
 平成17年9月1日
 市指定有形文化財「考古資料」

38 にひちに き ぼくしょせき くようとうぼ
二七日忌の墨書石供養塔婆 坪穴



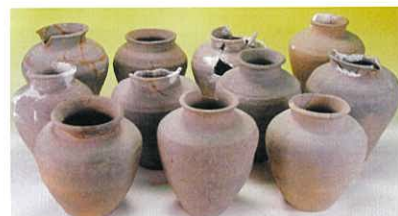
長禄2年(1458年)に見秀大姉の二十七日忌にあたり造立された二十七日忌の供養塔婆で、十三仏信仰における本地仏釈迦如来の種子である「ダ」が配されている。
 昭和57年4月1日
 黒川村指定
 平成17年9月1日
 市指定有形文化財「考古資料」

39 あみだだいら いたび
阿弥陀平の板碑 坪穴



阿弥陀平と呼ばれる台地にあったもので、阿弥陀種子が刻まれている。南北朝期のもので、雄大な薬舩彫りは当時の信仰の様子を物語るものといえる。黒川郷土文化伝習館に展示。
 平成12年2月25日 黒川村指定
 平成17年9月1日 市指定有形文化財「考古資料」

40 いだてんやま
韋駄天山遺跡出土品 平木田



本遺跡は標高38.6mの丘陵の頂上部に20mと10mのだ円形の墓域が周溝で区画されており、昭和29年の発掘調査で、火葬人骨を納めた壺形の骨蔵器が、複数出土した。また、青磁合子、中国銭等も出土した。南北朝から室町時代前半と考えられる。
 平成8年4月1日 黒川村指定
 平成17年9月1日 市指定有形文化財「考古資料」

41 すまぎ いたびぐん
須巻の板碑群 2基 須巻



板碑は武士が自分自身、死者の追善供養等のために造ったものであり、自然石に仏や菩薩等の種子や年号等を刻んで造られている。須巻の板碑は、鎌倉時代のもので阿弥陀如来の種子が力強く刻まれている。
 平成12年2月25日 黒川村指定
 平成17年9月1日 市指定有形文化財「考古資料」

42 あんでらいたび
坂井の庵寺板碑 坂井



坂井集落内の庵寺跡にある板碑で、花崗岩の自然石を石材とし、阿弥陀一尊と蓮台が彫られている。南北朝期のもと考えられる。
 平成12年2月25日
 黒川村指定
 平成17年9月1日
 市指定有形文化財「考古資料」

43 つばあな いたびぐん
坪穴の板碑群 5基 坪穴

花崗岩を用材とした鎌倉～南北朝期の板碑で、①～④には阿弥陀如来、⑤には胎藏界大日如来が刻まれている。
 平成12年2月25日 黒川村指定
 平成17年9月1日 市指定有形文化財「考古資料」



44 しもだて いたび
下館の板碑 下館



阿弥陀三尊種子を横に配列し、その下にも同じく阿弥陀三尊種子を三角配列で二群配置する。全国的に珍しいものである。花崗岩を用材とし、室町期のものと考えられる。

平成12年2月25日
黒川村指定
平成17年9月1日
市指定有形文化財「考古資料」

45 だいじょういん いたび
大乘院の板碑 鼓岡



鼓岡集落大乘院境内に所在する。金剛界大日如来の種子をもつ板碑は旧黒川村に1基のみである。花崗岩の自然石を用材とし、南北朝期のものと考えられる。

平成12年2月25日
黒川村指定
平成17年9月1日
市指定有形文化財「考古資料」

46 せきざわ いたび ぐん
関沢の板碑群 関沢



板碑群のうち1基は「嘉暦二天十一月」(1327年)の紀年銘を持った大形で、大日如来種子(パン)と蓮華座を彫刻している。この板碑は星の宮町内にあったものを宅地造成後、現在地に移動した。現在星の宮町内に1基、その他、関沢地内発見の板碑9基は公会堂前に移建されている。これらの板碑は、鎌倉から南北朝時代のものと推定されている。種子別では

阿弥陀三尊2基、同一尊4基、大日3基がある。
昭和48年4月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「考古資料」

47 ながはし いたび ぐん
長橋の板碑群 長橋



板碑群のうち1基は「延文三紀戊戌三月」(1358年)の紀年銘を有する阿弥陀三尊種子で、主尊に蓮華座、脇侍にそれぞれ1枚蓮弁を添えている。像容は高さ61cm、幅40cm、厚さ

27cm。ほかに無銘であるが砂岩礫石の地藏種子板碑1基、阿弥陀仏上生印座像を浮彫りした中世礫石仏1基がある。
昭和48年4月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「考古資料」

48 だいりんじ いたび ぐん
大輪寺の板碑群 東本町 大輪寺



大輪寺境内には、板碑10基(うち7基市指定)と礫石仏7体、宝篋印塔残欠11個、五輪塔残欠3個が確認されている。指定7基のうち1基は「貞治五年七月十日」(1366年)の紀年銘があり、阿弥陀三尊種子で、脇侍のみ一枚蓮弁を添えるほか、三尊の上部に、ようらく付きの天蓋を添える。ほかの無銘の6基は、種子別では、金剛界大日(パン)4基、同(パーンク)1基、胎藏界大日1基である。

昭和48年4月1日 中条町指定
平成17年9月1日
市指定有形文化財「考古資料」

49 おっぼうじ ぼくしよせき
乙宝寺の墨書石 乙 乙宝寺



乙宝寺境内出土の墨書石は、板碑3基と経石8個がある。墨書銘板碑1基(高さ23cm、幅11.5cm、厚さ8.5cm)には、「文安三」(1446年)の紀年と偈趣意等の墨書銘がある。「廿七日」のものは、種子と判読不明の墨書4行がみられる。阿弥陀種子(キリーク)1基、いずれも河原石である。経石は、高さ12cm~20cmまでの河原石を利用して経文を

墨書した多字一石である。
昭和57年1月7日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「考古資料」

50 にしさがえちやうじ ぞうどう いたび ぐん
西栄町地藏堂の板碑群 西栄町



この板碑群の1基は、現在一部破損し二つに割れていて、造立の紀年銘が欠落しているが、安政2年(1855年)刊の『東講商人鑑』に「貞和二年八月」(1346年)の銘文があったことがわかる。種子は金剛界大日如来(パン)である。また同所にある中世石仏は、半肉彫りの坐像の如来形で、月輪と梵字で「サ」(観音)「サク」(勢至)の脇侍が彫られているので阿弥陀如来であることがわかる。折衷三尊形式で阿賀北唯一の貴重な石造文化財である。

昭和57年1月7日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「考古資料」

51 かんのんどう せきぶつ ぐん
観音堂石仏群 表町



大正3年(1914年)開通の鉄道羽越線工事の際、中条駅付近(通称駒込)から出土した石仏2体で、2体とも阿弥陀上生仏浮彫り坐像である。大きい方の石仏は、背面中心部に直径5.5cm、深さ4.5cmの柄穴1カ所がある。2体とも中条系でその代表的遺品として貴重である。

昭和57年1月7日
中条町指定
平成17年9月1日
市指定有形文化財「考古資料」

52 あゆかわかものかみ 鮎川掃部頭の碑 新館



鮎川氏は、佐渡相川より本庄氏を頼って村上の鮎川に居住した。以来、鮎川氏を称し、大葉沢・笹平城等を構築、やがて本庄氏と相対する実力者に成長したが、後ち本庄氏に攻められて、この地で相果てたといわれる。

これを後世に伝えるため、村松浜の平野多七(富業)が、天保8年(1837年)碑の撰文を

亀田綾頼に、書は巻菱湖に依頼して、この地に建立した。

昭和57年1月7日 中条町指定

平成17年9月1日 市指定有形文化財「歴史資料」

54 たかつき 高坏 胎内市



本高坏は羽黒宮ノ入の出土で口径14.5cm・器高15.4cm・脚径11.2cmを測る。朝鮮半島の所産と考えられ、年代は5世紀のもの。県内唯一の陶質土器で、須恵質としては、最古に位置づけられる。(胎内市所蔵)

平成8年4月1日 中条町指定

平成17年9月1日

市指定有形文化財「考古資料」

56 わけやち 分谷地A遺跡 弥生時代再葬墓出土品



平成12年度、分谷地A遺跡弥生時代の調査では、今からおよそ2,300年前につくられた8基の再葬墓から15個体の壺や甕、石器(24点)が出土した。現在の愛知県を中心に分布する水神平式土器の流れをもつもの、ベンガラで赤く彩られたもの、人骨片が土器内部から見つかったもの等もある。

平成14年2月27日

黒川村指定

平成17年9月1日

市指定有形文化財「考古資料」

58 えがみやかたしゅつど ひん いっかつ 江上館出土品一括 本郷町



江上館跡からは中世の国内産陶器、貿易陶磁器、漆器、鉄製品、銅製品、石製品等が多数出土した。中には威信財として珍重された青白磁梅瓶や天目茶碗、儀礼に使用された土器等当時の風習文化、歴史を知る物もみられ、当地域の歴史を物語る重要な資料といえる。

平成22年4月20日

市指定有形文化財「考古資料」

53 はいかいやまく ひぐん 俳諧山句碑群 半山



俳諧山の句碑群は、安政2年(1855年)刊の『東講商人鑑』に19基が掲載され、現在残るものは、文化10年(1813年)から天保15年(1844年)までの7基である。これらの句碑は地元の俳句同好者が、自作の句を石に刻んで建立したもので、中には「あかあかと日はつれなくも秋の風」と刻んだ芭蕉の句碑も1基含まれている。

昭和55年4月1日 中条町指定

平成17年9月1日 市指定有形文化財「歴史資料」

55 まつやまようせき 松山窯跡出土品一括 塩沢



奈良時代末～平安時代初頭にかけて操業された2基の須恵器窯で、皿、坏、甕など37種類の品々が焼かれた。阿賀北地域の窯業を考える上で貴重な資料といえる。

平成12年2月25日 黒川村指定

平成17年9月1日

市指定有形文化財「考古資料」



57 わけやち 分谷地A遺跡出土品 縄文時代漆製品



分谷地A遺跡は、胎内市を流れる胎内川左岸標高100mの熱田坂地区に位置する。調査の結果、現在の美術工芸に劣らない優れた縄文時代後期の漆製品35点が発見され、市指定文化財となる。

平成14年2月27日 黒川村指定

平成17年9月1日 市指定有形文化財「考古資料」

59 おおさわ いせき 大沢遺跡 関沢



標高100m前後の丘陵上に、縄文早期から前・中・後・晩期および弥生期の遺物が包含されている複合遺跡である。昭和33年に発掘調査が行われた。この配石遺構が営まれた時期は、縄文時代後半とされ、発掘当時は県内でも類例のないものとされた。

昭和50年5月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定記念物「史跡」

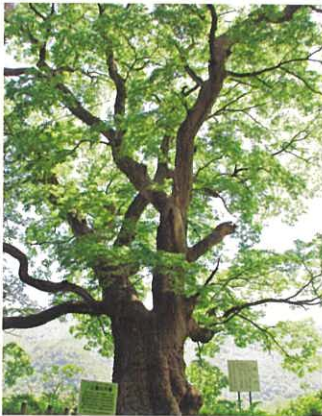
60 わげ やち 分谷地A遺跡 熱田坂



縄文時代から弥生時代にかけての複合遺跡。遺跡上段部の調査では(平成12年度)、縄文時代の住居址や土坑、さらに国内最北端に位置する弥生時代の再葬墓が発見された(平成13年度)。遺跡下段部の湧水地からは、縄文時代後期

(約4,000年前)の漆器類約30点が当時のまま色鮮やかに出土した。
平成14年2月27日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定記念物「史跡」

61 いちのせき けやき 一之堰の大榎 下館



胎内川右岸の下館にあり、目通り周りは6.2m、樹高20mを超える大ケヤキである。江戸時代の旅人が胎内川左岸から右岸への[渡し]の目印になったものといわれている。

昭和46年12月1日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定記念物「天然記念物」

62 しだれすぎ 欽江の枝垂杉 欽江



欽江神明社にある目通り周り5.15m、高さ21mの杉で、「しだれ柳」のように枝が垂れ下る。樹齢はおよそ300年。この枝垂れ杉の下で神楽や、歌舞伎が演じられ、現在も伝承されている。

昭和46年12月1日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定記念物「天然記念物」

63 おっぼうじ 乙宝寺のオオバガシ 乙 乙宝寺



乙宝寺本坊の庭にあるブナ科の暖地性常緑高木で、アカガシといわれる。この老木は、45度ほど傾き樹幹は支柱でささえられ、片側は老朽して空洞となって特異な樹相を呈している。樹齢400年(推定)、樹高5.5m、枝張8.0m、幹周3.1m。

昭和48年4月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定記念物「天然記念物」

64 じゅんさい池 栗木野新田



ハンノキに囲まれた湧水池で、春にはミズバショウが咲き誇る。ジュンサイが繁茂し、湿生植物等もみられる。オゼイトトンボ、エゾイトトンボ等が生息し、かつてはハッチョウトンボの生息地として知られていた。近年ハッチョウトンボ

がみられなくなり、生息地整備や保護活動が進められている。昭和50年4月3日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定記念物「天然記念物」

65 つづみおか おおすぎ 鼓岡の大杉 鼓岡



神明社境内の大杉。目通り周り5.9m、高さ30mで、落雷により二つに分かれて成育している。樹齢は推定で500年といわれ、参道は8本の杉巨木にかこまれ、鎮守の森として荘厳な雰囲気をかもしだしている。

昭和53年11月6日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定記念物「天然記念物」

66 お不動様の大杉 下荒沢



大山祇神社境内入り口にある杉で、目通り周囲5m、樹高は35mを超える。樹齢は推定で450年、昭和42年の羽越水害でもびくともゆるがず、集落の人々を見守ってきた。

昭和53年11月6日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定記念物「天然記念物」

67 ばとうかんのん もみ 馬頭観音の大榎 下赤谷



下赤谷の鳥坂神社境内にあり、目通り周り4.7m、高さ35mを超え、正徳3年(1713年)馬頭観世音堂建立の際、植樹されたといわれる。参拝に来たシャング・シャング馬の盛衰をじつとみつめてきた。
昭和53年11月6日
黒川村指定
平成17年9月1日
市指定記念物「天然記念物」

69 きのとざくら 乙 乙宝寺



約350種あるといわれる桜の中の一つで、俗称「大提灯ざくら」ともいわれている。このサクラは、枝から花に伸びる花梗が5~6cmと長く下に伸びて大きな花をつける。また、他の桜に比べ、花の時期に葉が生い茂り、他の桜と異なる

特徴がある。松尾芭蕉が奥の細道で参拝し、「うらやまし 浮世の北の山桜」と詠んだと伝わる句碑が境内にみられます。
平成元年8月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定記念物「天然記念物」

71 さんのう 山王のミツガシワ 山王



ミツガシワ(ミツガシワ科)は、山地の沼など湿地にはえる多年草。山王のような海岸近くの低地で群生しているのは貴重な存在である。葉は三枚の小葉からなり、4月下旬頃に高さ30cm位の花茎を出し頂に6~9cmの総状花序の白い花を開く。

平成8年4月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定記念物「天然記念物」

73 ほだに 夏井の保谷池 夏井



胎内平西南、ゴルフ場内に位置する池。現在も清水がわき、池の中島には、トキソウ、ミツガシワ等の湿生植物が群生する。ハッチョウトンボ、エゾイトトンボ、オゼイトトンボや、モリアオガエル、メダカの生息地としても貴重な池である。

昭和46年12月1日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定文化財「天然記念物」

68 はぐる 羽黒の大榎(カヤ) 羽黒



この榎は樹幹周は3m82cm、枝下1m84cm、樹高15mの老木で新潟県下でも7本のうちに入る巨木である。樹勢は旺盛で、暖地性のカヤである。
昭和57年1月7日
中条町指定
平成17年9月1日
市指定記念物「天然記念物」

70 かさまつ 黒川の傘松根株 下館



枯死前

下館住吉境内にあった赤松で、枯死する前は高さ20mあり、地上2.5mから三枝にわかれ、巨大な傘状をしていた。平成5年に枯死し、伐採、その根株は大蔵神社内に保存し、切株は黒川郷土文化伝習館に展示されている。

昭和27年12月 県指定(平成4年12月指定解除)
平成5年8月25日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定記念物「天然記念物」

72 おおけやき 夏井の大榎 夏井



坂上邸の屋敷内に生えている樹高23mのケヤキの巨木。目通り周囲4.4mもあり、5mのところから3本の大きな枝に分かれている。樹勢は旺盛で、この大樹は周囲の環境に風格を添えている。この榎は坂上家により、文化文政年間に屋敷を囲む

ように5本植えられたもののうち、最後に残った1本である。1868年の戊辰戦争では、夏井集落が砲撃を受けた際に、坂上邸の榎も新政府軍に砲撃を受け焼けた。被災した際、榎の樹高は現在の3分の2程度だったが、3年後に回復してよみがえり、現在まで成長してきたと坂上家に伝わる。

平成22年4月20日 市指定記念物「天然記念物」

74 こまいぬ 狛犬 蔵王 金峰神社



金峰神社の石造り(越前笏谷石の凝灰石)の狛犬二体で、高さ30cmを測る。天正15年(1587年)の刻文がみられ、笹口浜の沢惣兵衛が寄進したもの。

昭和47年6月23日 黒川村指定
平成17年9月1日
市指定有形文化財「彫刻」

75 もくぞう ざ おうごんげんりつぞう
木造蔵王権現立像 蔵王 金峰神社



蔵王権現立像三軀は、吉野の金峯山の蔵王権現を蔵王山に勧請し、その尊像を刻んで祀ったと伝えられる。二軀は桂材の一本彫りで、一軀は寄木造で、玉眼を配し、彩色下地を残す。室町時代の作といわれる。

昭和60年3月28日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「彫刻」

76 もくぞう じゅう にんしんしょうりつぞう
木造十二神将立像 蔵王 金峰神社



十二神将立像は本尊を守る脇武将で四軀が残る。室町時代の作といわれる。

昭和60年3月28日
黒川村指定
平成17年9月1日
市指定有形文化財「彫刻」

77 もくぞう あ み だ に よ り り つ ぞ う
木造阿弥陀如来立像 乙 乙宝寺



この阿弥陀如来立像は、乙宝寺の宝物陳列室に安置されているもので、材質は檜、漆下地、玉眼入り、像高97cmの立像である。作者、伝来等不詳であるが、全体の感じから鎌倉時代末期の作とみられている。

昭和50年5月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「彫刻」

78 じゅういちめんかん のん り つ ぞ う
十一面観音立像 築地 惣持寺



築地惣持寺の観音堂本尊である十一面観音像は、同寺の縁起によると、大和国初瀬寺の観世音と同木、同作の尊像とある。初瀬寺は、延喜15年(915年)得道上人の開基で、一木二尊を彫刻し、開眼供養は幡州書写山の性空上人といわれている。その後、本尊は山城国井出村の玉井寺を経て、築地に安置されたと伝える。この十一面観音は、木造一木造りの高さ102.5cmの立像で鎌倉時代のもので制作もすぐれている。

昭和57年1月7日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「彫刻」

79 もくぞう せい かん ぜ のん ぼ さ つ り つ ぞ う
木造聖観世音菩薩立像 東牧寺



この仏像は、慈覚大師(平安時代前期の天台宗の僧円仁)の作と伝えられ、像高117cmで桧材の一本造りである。東牧寺の本尊で、旧黒川村内の仏像では一番古い。

昭和57年4月1日
黒川村指定
平成17年9月1日
市指定有形文化財「彫刻」

80 さかい かぐらまい
坂井の神楽舞 坂井



文政年間(1818年)ごろに菅谷方面から伝承されたとの説がある。村人の叫びを神々に伝えるため、豊作を祈願するため踊られてきた。昭和42年の羽越水害で被害を受けながら、同年、全国青年大会に新潟県代

表で出場し、準優勝に輝いた。
昭和46年12月1日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定民俗文化財「無形民俗文化財」

81 くわえ かぐらまい
鍬江の神楽舞 鍬江



宝永2年(1705年)ごろから悪魔祓い・五穀豊穡・家内安全を祈念して踊られてきた。神楽舞のほかに剣舞や、歌舞伎も行われる。鍬江の神楽は歯が黒い(おはぐろ)メスの神楽で、神楽のみで演舞される。歌舞伎は羽越

水害による道具・台本の流失で途絶えたが、その後復活された。
平成4年4月1日 黒川村指定
平成17年9月1日 市指定民俗文化財「無形民俗文化財」

82 ついじ ししまい
築地の獅子舞 築地



築地の獅子舞は、文政年間(1818~1829年)のころ、当時村の組頭役近磯右衛門2代目磯内が、信州から持って来た行事と伝えられている。毎年7月15日から17日まで鎮守弥彦神社の祭礼に奉納される。現在、町内

各地に伝来する獅子舞とは一風変わった「竹の棒押し」(竹のからかい)の行事がある。
平成4年9月17日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定民俗文化財「無形民俗文化財」

83 塩竈神社奉納船絵馬 荒井浜



荒井浜の塩竈神社に奉納された船絵馬は、弘化3年(1846年)から明治24年(1891年)まで34点がある。明治24年奉納のものは、市内唯一海難船絵馬で、杉板に直接描いている。

昭和50年5月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定民俗文化財「有形民俗文化財」

85 山野神社奉納船絵馬 山屋



この船絵馬は、大字荒井浜の船玉神社に奉納されていたものであるが、昭和36年に社殿が倒壊したため山野神社に移された。絵馬は、寛政11年(1799年)から慶応2年(1866年)まで15点、寛政11年の奉納は、市内最古である。

昭和50年5月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定民俗文化財「有形民俗文化財」

87 烏牛王版木 山屋



「応永三」(1396年)の紀年銘を有する縦26cm、横34cm、厚さ4.3cmの一枚板に烏牛王宝印の図柄を陽刻した版木で、応永年中勅命により、日本三大熊野の内に加えられた。山屋の片野家では、烏牛王を賜わり配礼した。

昭和49年4月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「歴史資料」

89 蘇民将来の版木 山屋



この版木は、現在も山野神社宮司片野家故地の旧黒川村熱田坂方面に正月3日、全戸に配礼される。配礼をうけた家では、これを「そでまもり」と呼んでおり、家の戸口(出入口)の頭上に掲示する。

版木は「宝徳二申(1450年)右近」の刻銘のある古版(縦16.5cm、横36.5cm)、と「天正十未秋万戒寛文快公第片野哥之進友信刀・文化五辰冬(1808年)二十四世清賢改版」刻銘の新版(縦23cm、横35cm)の2枚がある。

昭和57年1月7日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「歴史資料」

84 石動神社奉納船絵馬 中村浜



この船絵馬は、中村浜の石動神社と若宮八幡宮・神明社の3社に奉納されたもので、文化13年(1816年)から明治31年(1898年)まで49点(うち1点は残欠)がある。

昭和50年5月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定民俗文化財「有形民俗文化財」

86 押絵船絵馬 荒井浜



この押絵船絵馬は明治20年(1887年)8月、荒井浜の船玉神社に奉納されたもの。桐板の材質をそのまま生かした押絵の手法でつくられている。船体・帆・波・鳥等は絹地で表現、内部には綿を薄く入れふくらみを持たせている。現在、市ではこの一枚しか発見さ

れていない貴重なもの。(寸法67.8cm×52.2cm)
昭和50年7月2日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定民俗文化財「有形民俗文化財」

88 鷗辺詩鈔の版木及び添え書簡 高橋



村松浜の平野安之允(鷗辺)自作の漢詩鈔の版木で、詩鈔の巻頭には、頼三樹三郎の自作自筆を刻した得がたいものである。なお三樹三郎の自筆送状一簡が添えてある。この詩鈔は、嘉永元年(1848年)に刷り本として刊行された。

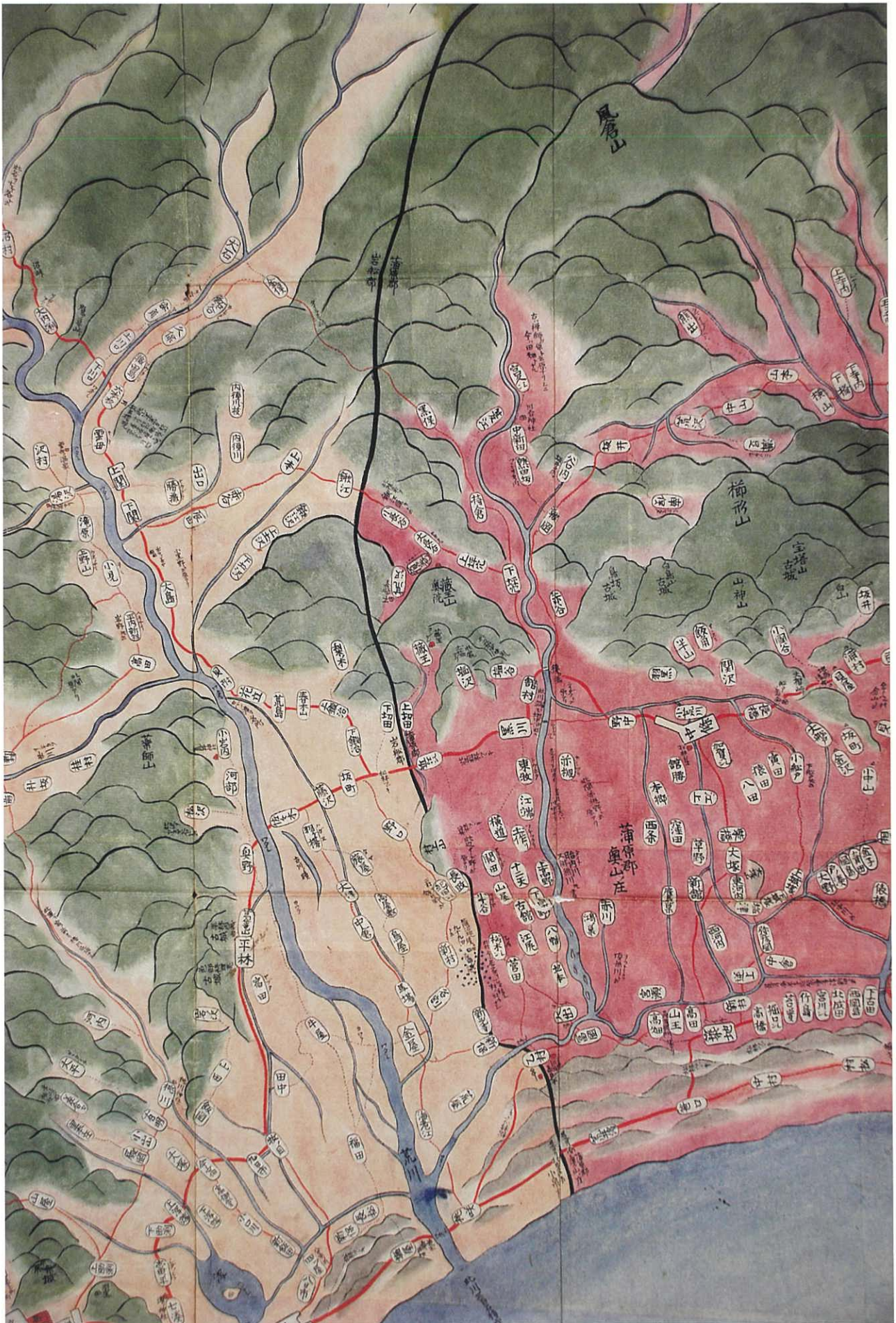
昭和49年4月1日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「歴史資料」

90 文殊堂奉納算額 野中



文殊堂奉納の算額の形式は、数学の問題と答と献額者が記されているが、必ず入るはずの師の名前がないので献額者は誰に師事したのかわからない。ここに奉納された三枚の額は鮮やかではっきり読みとれる。1.元治甲子年八月(1864年) 2.明治五年壬申(1872年)六月(写真のもの) 3.年号不詳

昭和57年1月7日 中条町指定
平成17年9月1日 市指定有形文化財「歴史資料」



縦221.5cm、横88.2cmの大図で、長岡藩の草間文績が越後の国を踏査して文化13年(1816年)に作図。7枚(7群)に分けて描かれ、当時の村、小字、道路、川、山稜、古城等が詳しく記載されている鳥瞰図で、精度の高さとともに美術的にもすぐれている。昭和59年4月2日 黒川村指定 平成17年9月1日 市指定有形文化財「歴史資料」

92 のざわ けしゅうたくしゅおく 野澤家住宅主屋 荒井浜



新潟県胎内市荒井浜に所在する野澤家は、当初北前船交易の廻船問屋を生業としていたが、明治初頭に地主となり、代々当主は学問・芸術文化を奨励し、特に教育に力を入れてきた。現在する住宅は明治22年に建築されたもので、荒井浜中央の通りに面して正面玄関があり、玄関から敷地奥に向かい土間がつらぬき、正面玄関と裏口側にそれぞれ大戸が設けられている。

構造物や土間の床、大戸、左官塗りの壁、引き戸等が当時のまま残され、建築年代や意匠からみて荒井浜地区の町並みを代表する建築物の1つであり、歴史的な景観に寄与している。

平成19年5月15日 国登録有形文化財

93 あらそう てんぼ けん しゅおく みせくら うちくら 荒惣店舗兼主屋・見世蔵・内蔵 本町



宿場町中条の中心で、文政7年(1824年)に荒川屋惣四郎が酒造卸業や紙問屋を営んだのが始まりで、胎内市屈指の町屋建築といえる。土間に沿って店、茶の間、板の間が並び、明治34年に建築された見世蔵は海鼠壁で飾られ、黒漆喰塗の両開き窓は街路景観を形成し、市民から「荒惣の土蔵」と親しまれている。また、江戸時代後期頃に建築された内蔵は町屋に付属する土蔵として貴重なものといえる。
平成29年10月27日 国登録有形文化財

94 りょうてい なん と や 料亭 南都屋 本町



宿場町中条の中心で、江戸末期に「魚五」として魚料理を町の人々に提供したのが始まりで、大正時代には料亭、仕出し、鮮魚委託問屋として地域の人々に愛されてきた。現在の建物は昭和4年(1929年)に三代目当主須貝五平が構え、造作材には米松や地松の良材を用いた洗練された意匠の料亭建築である。画家の藤本雅堂、書家の會津八一も頻繁に訪れた。

平成29年10月27日 国登録有形文化財

95 ぜんりょうじ ほんどう くり 善良寺本堂・庫裏 西栄町



江戸時代宿場町中条の代表的な寺院で、胎内市では唯一の浄土真宗大谷派の寺院です。天正10年(1582年)に僧侶の道西が加賀国より長橋に移り、その後4代目住職春慶の時に現在地に移転したと伝わります。現存する本堂は天明5年(1785年)の大火で焼失後、10代目住職榮琳が寛政6年(1794年)に再建したものです。本堂の向拝の柱には躍動感ある龍の彫刻が施され、本堂の周りには回廊が囲み、江戸時代後期真宗寺院本堂の好例といえます。現住職は第17代目となります。

平成30年11月2日 国登録有形文化財

96 ふじ き け しゅうたくしゅおく しょう ゆぐら 藤木家住宅主屋・醤油蔵 桃崎浜



藤木家住宅は天保14年(1843年)頃、3代目当主藤木平次郎(熊右工門)の時に建築された。

江戸時代、藤木家は北前船の船主として千石船等を所有し、当時藤木家が奉納した船絵馬は国の重要文化財に指定されている。船主集落の景観の核となる町屋建築で、建物の中は南側に通り土間があり、土間の北側に平行して座敷、茶の間、寝間等が配置されている。各部屋は木目を生かした拭き漆塗りで艶やかに仕上げられ、趣がある。また同じく江戸末期に建設された醤油蔵は地域の伝統産業を今に伝える大型の醸造蔵といえる。

平成30年11月2日 国登録有形文化財

97 みうらけいじゅうたくしゅうおく
三浦家住宅主屋 桃崎浜



三浦家は江戸時代に廻船業で財をなし、天保12年(1841年)に地元桃崎浜の荒川神社造営にも大きく寄与した名士。三浦家の祖は大阪湾の堺港の出身で、代々その屋号を「堺屋」と称し、廻船業界の代表的存在であった。明治19年建築の主屋は、切妻造平屋建て、居室は3列構造となっている。上手に拭き漆仕上げの次の間、上段の間等があり、上段の間からは殿様より拝領された松の木を植えた庭園を眺めることができる。荒川神社に三浦家が奉納した船絵馬、模型和船は昭和45年に国の重要民俗文化財に指定されている。
令和元年12月5日 国登録有形文化財

99 だいにんじほんどう くり きょうぞう どうぞう さんもん そうもん
大輪寺本堂・庫裏・経蔵・土蔵・山門・総門 東本町



貞和2年(1346年)開創。永正6年(1509年)に臨濟宗から曹洞宗に改め、鎌倉期から慶長3年(1598年)の上杉景勝会津移封により離れるまで当地を治めた中条氏の菩提寺となる。天保8年(1838年)の火災、明治元年(1868年)の戊辰戦争による大火の後、本堂は明治16年に、庫裏は大正9年に、経蔵は安政4年(1857年)に、山門・総門は江戸末期に、土蔵は昭和3年(1928年)に建てられた。山門は2階建ての鐘楼門で、随所に繊細な彫刻が施され、大工の高い技量がうかがえ、造形の規範となっている。
令和元年12月5日 国登録有形文化財

101 こせうた
瞽女唄(小林ハル) 熱田坂



明治33年、三条市に生まれ、生後3ヵ月で失明し、5歳でござえ入門。日本の民俗芸能「ござ唄」を守り続けてきた最後の越後ござえで、晩年は胎内やすらぎの家に住み、105歳で他界。その唄声は、凜としてやさしさにも満ちていた。

昭和53年3月25日
国選択無形文化財保持者
平成17年4月25日 解除

©川野栞二

98 あらかわじんじやほんでん はいでん へいでん
荒川神社本殿・拝殿及び幣殿 桃崎浜



荒川神社本殿は天保12年(1841年)に建立されたもので、北前船で栄えた桃崎浜高台の境内奥に建っている。天保8年(1837年)に起こった大火の後、再建され、宮大工の棟梁は村上の稲垣八郎兵衛重貢。祭神は天鈿女命アマノハスメノミコトで、社殿内には大阪の船絵馬師、吉本善京筆による「天岩戸絵図」が奉納されている。一間社流れ造りで、本殿前面に接続する拝殿及び幣殿は、入母屋造、茅葺形銅板葺きで、彫刻豊かな向拝を付け、内部は太い虹梁を架けるなど重厚でかつ装飾性に優れている。天保8年から明治11年までに奉納された船絵馬86枚のうち85枚は、昭和45年に国の重要民俗文化財に指定され、また三浦関右衛門が明和5年と嘉永3年に奉納した模型和船も同じく国の重要民俗文化財に指定され隣接する胎内市桃崎浜文化財収蔵庫で保管されている。
令和元年12月5日 国登録有形文化財

100 きゅういとうけいじゅうたくどうぞう こめどうぞう
旧伊藤家住宅土蔵・米土蔵・住宅作業場



黒川伊藤本家は黒川藩柳沢家時代に大庄屋、代官、中小姓に任命され、近代には代々村長等を務めた。明治39年建設の土蔵は切妻造りで、1階を海鼠壁とし、旧家の漆器膳や陶磁器類等の家財を納めた大型土蔵といえる。また江戸末期に造られた米土蔵は広大な内部をもつ大型の米蔵で、太い梁が巡っている。昭和28年建設の作業場は、1階の土間で農機具や米等を保管し、2階では米の選別、俵製作等を行い、豪農の屋敷構えを今に伝えている。

平成26年に伊藤家の住宅土蔵、米土蔵、住宅作業場が胎内市に寄贈され、敷地内の閑静な竹林と、毎年春に満開の花を咲かす百年桜と共に歴史的な趣を醸し出している。
令和元年12月5日 国登録有形文化財

胎内市文化財マップ



A 中条駅周辺拡大図



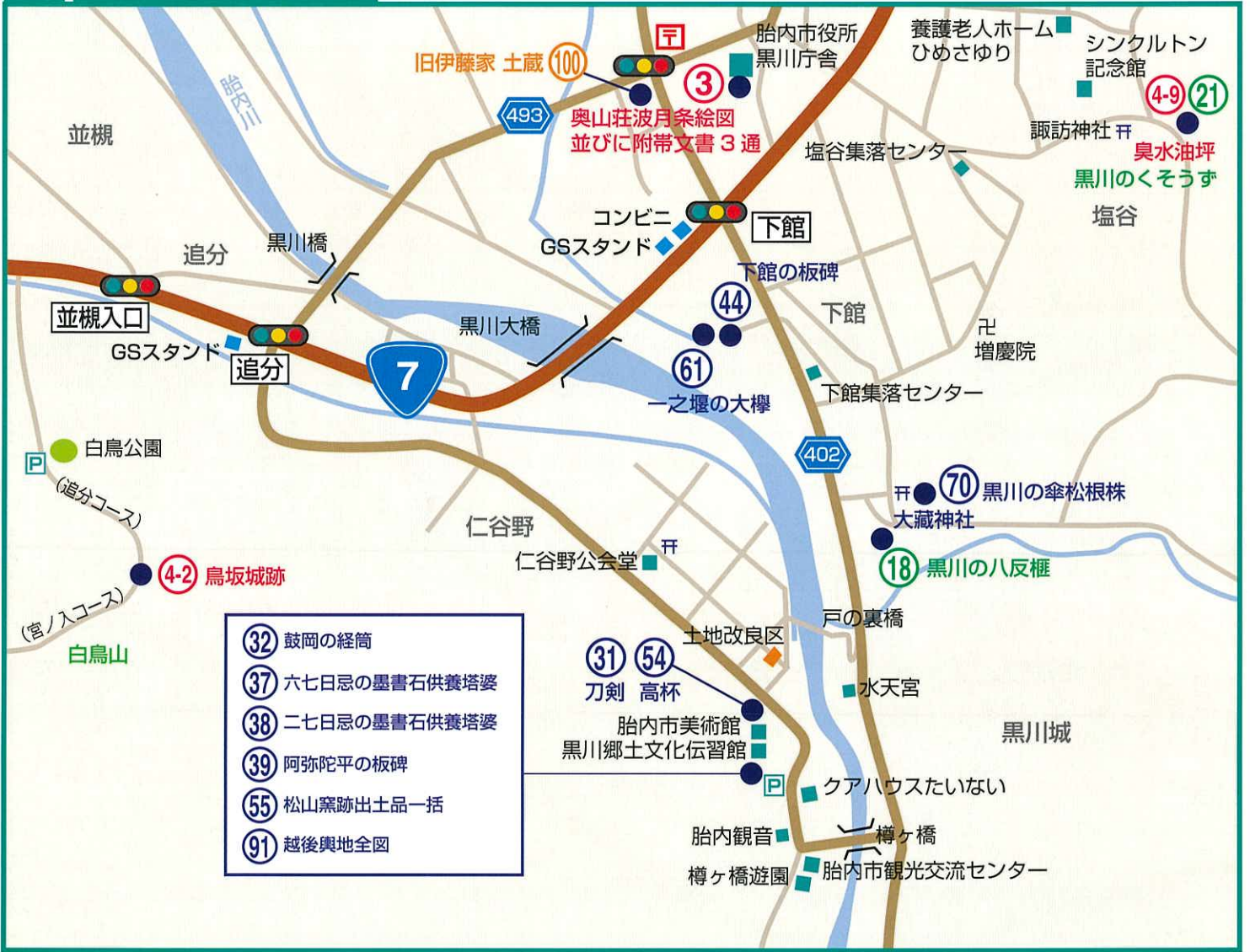
B 桃崎浜周辺拡大図



C 荒井浜周辺拡大図



D 下館周辺拡大図



鳥坂城周辺航空写真

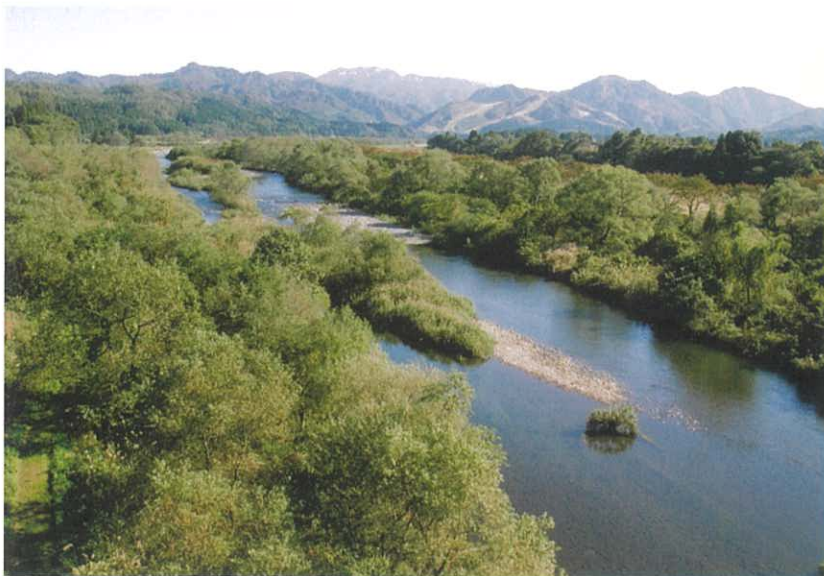
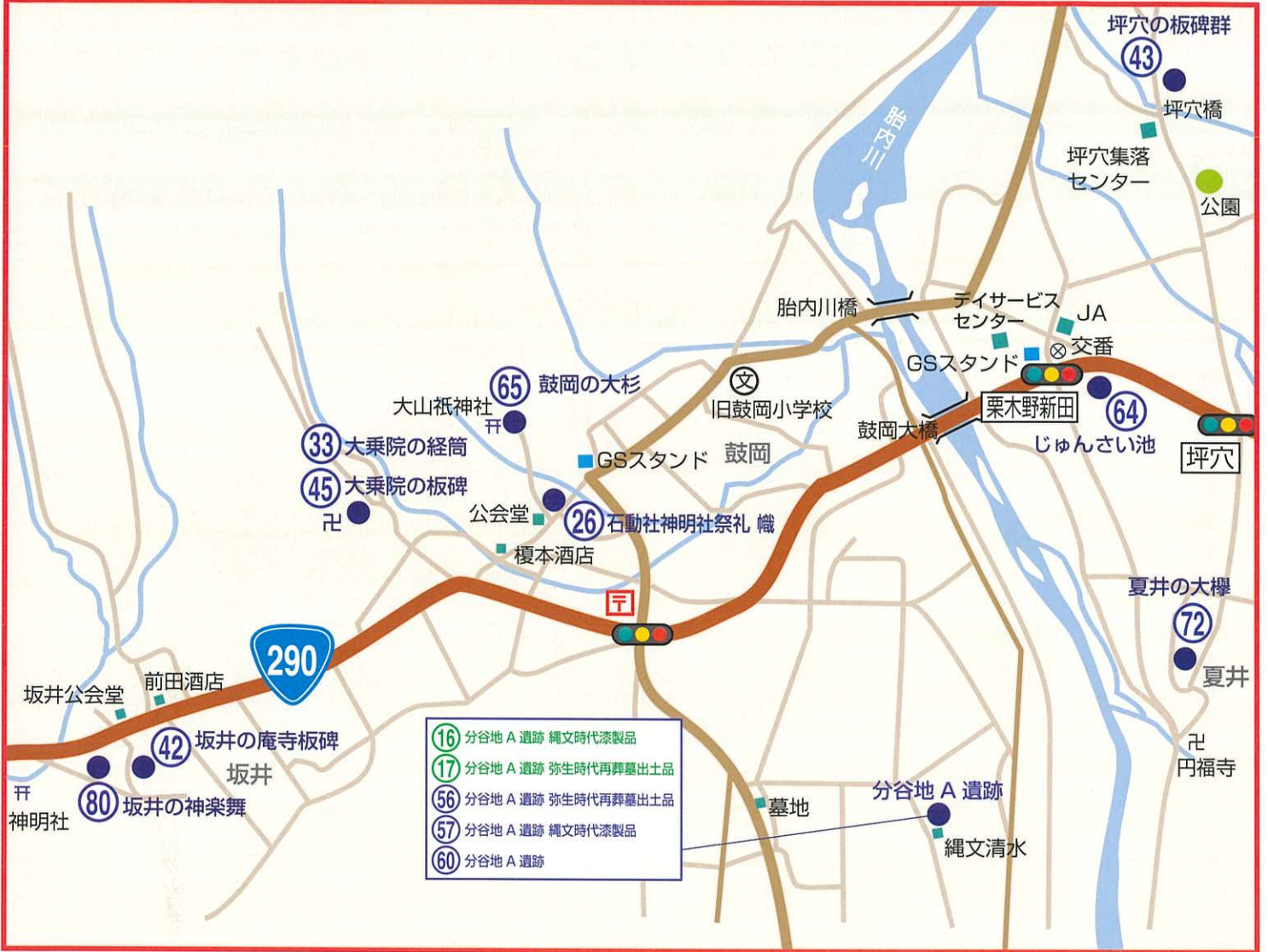


鳥坂城跡



臭水油坪跡

E 鼓岡周辺拡大図



清流胎内川（鼓岡大橋から上流を望む）



分谷地 A 遺跡 縄文漆器



夏井の大櫓

F 夏井周辺拡大図



夏井の大波石



小林ハルの墓

胎内市文化財一覽

令和2年3月現在

指定区分	ガイド番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	所有者(管理者)	備考
国指定	1	史	城の山古墳	1基	H31. 2. 26	大塚	胎内市	古墳時代
	2	建	乙宝寺三重塔附棟札一枚	1基	T12. 3. 28	乙	乙宝寺	江戸初期
	3	古	奥山荘波月条絵図 並びに附帯文書 3 通	1巻	S54. 6. 6	胎内市	胎内市	鎌倉末期
	4	史	奥山荘城館遺跡	12箇所 中 11箇所	S59. 10. 3 S59. 10. 3 S59. 10. 3 S59. 10. 3 S59. 10. 3 H6. 3. 30 H6. 3. 30 H6. 3. 30 H6. 3. 30 H18. 1. 26 H18. 1. 26	本郷町 羽黒 関沢 野中 村松浜 平木田 下館 蔵王 塩谷 西本町 古館	胎内市ほか	鎌倉初期 ～ 戦国
	4-1		・江上館跡					
	4-2		・鳥坂城跡					
	4-3		・倉田城跡					
	4-4		・野中石塔婆群					
	4-5		・小鷹宮境内地					
	4-6		・韋駄天山遺跡					
	4-7		・黒川城跡					
	4-8		・蔵王権現遺跡					
	4-9		・臭水油坪					
	4-10		・坊城館跡					
4-11	・古館館跡							
5	有民	荒川神社奉納模型和船 及び船絵馬	2隻 85点	S45. 7. 30	桃崎浜	胎内市	明和5年 嘉永3年 天保～明治	
6	特天	ニホンカモシカ		S30. 2. 15				
7	特天	イヌワシ		S40. 5. 12				
県指定	8	建	乙宝寺弁天堂	1棟	S30. 2. 9	乙	乙宝寺	江戸初期
	9	絵	紙本着色乙宝寺縁起絵巻	1巻	S44. 3. 25	乙	乙宝寺	文化7年
	10	建	熊野若宮神社宮殿附棟札一枚	1棟	S52. 3. 31	本町	熊野若宮神社	元禄3年
	11	建	八所神社宮殿	1棟	H5. 3. 30	乙	乙区	
	12	工	金銅製華鬘附玉幡二枚	1枚	S27.12.10	乙	乙宝寺	大永4年 大永6年 天文7年
	13	工	鉄製柴燈鉢	1点	S29. 2. 10	蔵王	金峰神社	元徳3年
	14	工	金峰神社の鰐口	1点	S57. 3. 26	蔵王	金峰神社	永享8年
	15	工	木造役行者坐像	1体	S60. 3. 29	蔵王	金峰神社	鎌倉時代
	16	考	分谷地 A 遺跡 縄文時代漆製品	21点	H15. 2. 28	胎内市	胎内市	縄文時代
	17	考	分谷地 A 遺跡 弥生時代再葬墓出土品	23点	H15. 2. 28	胎内市	胎内市	弥生時代
	18	天	黒川の八反樋	1本	S27.12.10	下館	皆川東一郎	
	19	天	地本のミズバシヨウ群落		S38. 3. 22	地本	胎内市	17,000株
	20	天	夏井の大波石	1ヶ所	H22. 3. 23	夏井	胎内市	
	21	天	黒川のくそうず	1ヶ所	H4. 3. 27	下館(塩谷)	熊倉利直 他	
	22	考	二軒茶屋遺跡出土品 110 点	110点	H25. 3. 26	黒川	胎内市	縄文時代
	23	建	金刀比羅神社本殿	1棟	H5. 7. 1	村松浜	村松浜	天保6年
	市指定	24	絵	乙山大日堂建立地固之真景図	1幅	S50. 5. 1	乙	乙宝寺
25		書	大般若波羅蜜多經	117巻	H15. 9. 1	乙	乙宝寺	
26		書	石動社神明社祭札 幟	2枚	S59. 4. 2	鼓岡	胎内市	天保13年
27		歴	林大学頭信敬書掲額	1面	S57. 4. 1	東牧	東牧寺	1789年
28		古	胎内川普請絵図並びに附帯文書	1巻	S49. 4. 1	並槻	伊藤タイ	寛政11年
29		工	懸仏	2体	S50.12.12	蔵王	金峰神社	応永11年
30		工	華原磬	1点	S50.12.12	蔵王	金峰神社	貞永元年8月
31		工	刀剣	1口	H8. 4. 1	胎内市	胎内市美術館	
32		考	鼓岡の経筒	5点	S46. 12. 1	鼓岡	鼓岡	室町期
33		考	大乘院の経筒	1点	S46. 12. 1	鼓岡	大乘院	室町期
34		考	乙宝寺の塔心礎	1基	S48. 4. 1	乙	乙宝寺	
35		考	棟札	1枚	S50.12.12	蔵王	金峰神社	永禄5年
36		考	棟札	1枚	S50.12.12	蔵王	金峰神社	元和7年
37		考	六七日忌の墨書石供養塔婆	1点	S57. 4. 1	下館	小野勇吉	天文11年
38		考	二七日忌の墨書石供養塔婆	1点	S57. 4. 1	坪穴	胎内市	長禄2年
39		考	阿弥陀平の板碑	1基	H12. 2. 25	坪穴	胎内市	南北朝期
40		考	韋駄天山遺跡出土品	1括	H8. 4. 1	胎内市	胎内市教育委員会	南北朝～室町期
41		考	須巻の板碑群	2基	H12. 2. 25	須巻	桐生平次	鎌倉期
42		考	坂井の庵寺板碑	1基	H12. 2. 25	坂井	坂井	南北朝期
43		考	坪穴の板碑群	5基	H12. 2. 25	坪穴	坪穴	鎌倉～ 南北朝期
44		考	下館の板碑	1基	H12. 2. 25	下館	大蔵神社	室町期
45		考	大乘院の板碑	1基	H12. 2. 25	鼓岡	大乘院	南北朝期
46		考	関沢の板碑群	10基	S48. 4. 1	関沢	関沢	鎌倉～南北朝期
47		考	長橋の板碑群	2基	S48. 4. 1	長橋	長橋	延文3年
48		考	大輪寺の板碑群	7基	S48. 4. 1	東本町	大輪寺	貞治5年
49		考	乙宝寺の墨書石	9点	S57. 1. 7	乙	乙宝寺	文安3年
50		考	西栄町地蔵堂の板碑群	2基	S57. 1. 7	西栄町	快蔵院	貞和2年
51		考	観音堂石仏群	2基	S57. 1. 7	表町	表町	
52		歴	鮎川掃部頭の碑	1基	S57. 1. 7	新館	新館	天保8年
53		歴	俳諧山句碑群	7基	S55. 4. 1	半山	胎内市	文化10年～天保15年
54		考	高坏	1個	H8. 4. 1	胎内市	胎内市美術館	
55		考	松山竈跡出土品一括	1括	H12. 2. 25	胎内市	胎内市	
56		考	分谷地 A 遺跡 弥生時代再葬墓出土品	1括	H14. 2. 27	熱田坂	胎内市	弥生時代
57		考	分谷地 A 遺跡 縄文時代漆製品	1括	H14. 2. 27	熱田坂	胎内市	縄文時代

市指定	58	考	江上館出土品	1括	H22. 4. 20	本郷町	胎内市	
	59	史	大沢遺跡	1箇所	S50. 5. 1	関沢	松村幹雄 他	
	60	史	分谷地 A 遺跡	1箇所	H14. 2. 27	熱田坂	胎内市	縄文～弥生
	61	天	一之堰の大櫓	1本	S46. 12. 1	下館	胎内市	
	62	天	鉾江の枝垂杉	1本	S46. 12. 1	鉾江	鉾江	
	63	天	乙宝寺のオオバガシ	1本	S48. 4. 1	乙	乙宝寺	
	64	天	じゅんさい池	1箇所	S50. 4. 3	粟木野新田	胎内市	
	65	天	鼓岡の大杉	1本	S53.11.6	鼓岡	鼓岡	
	66	天	お不動様の大杉	1本	S53.11.6	下荒沢	下荒沢	
	67	天	馬頭観音の大樫	1本	S53.11.6	下赤谷	下赤谷	
	68	天	羽黒の大樫	1本	S57. 1. 7	羽黒	羽田野巖	
	69	天	きのとごくら	1本	H1. 8. 1	乙	乙宝寺	
	70	天	黒川の傘松根株	1点	H5. 8. 25	下館	黒川の傘松根株 保存会	大蔵神社
	71	天	山王のミツガシワ		H8. 4. 1	山王	山王	
	72	天	夏井の大櫓	1本	H22. 4. 20	夏井	坂上敏	
	73	天	夏井の保谷池	1箇所	S46. 12. 1	夏井	夏井	
	74	彫	狛犬	1双	S47. 6. 23	蔵王	金峰神社	天正15年
	75	彫	木造蔵王権現立像	3軀	S60. 3. 28	蔵王	金峰神社	室町期
	76	彫	木造十二神将立像	4軀	S60. 3. 28	蔵王	金峰神社	室町期
	77	彫	木造阿弥陀如来立像	1軀	S50. 5. 1	乙	乙宝寺	
	78	彫	十一面観音立像	1軀	S57. 1. 7	築地	惣持寺	
	79	彫	木造聖観世音菩薩立像	1軀	S57. 4. 1	東牧	東牧寺	平安期
	80	無民	坂井の神楽舞		S46. 12. 1	坂井	坂井神楽保存会	
	81	無民	鉾江の神楽舞		H4. 4. 1	鉾江	鉾江芸能保存会	
	82	無民	築地の獅子舞		H4. 9. 17	築地	獅子舞保存会	
	83	有民	塩竈神社奉納船絵馬	34点	S50. 5. 1	荒井浜	塩竈神社	
	84	有民	石動神社奉納船絵馬	49点	S50. 5. 1	中村浜	石動神社	
	85	有民	山野神社奉納船絵馬	15点	S50. 5. 1	山屋	山野神社	
	86	有民	押絵船絵馬	1点	S50. 7. 2	荒井浜	阿部正一	
	87	歴	烏牛王版木	1枚	S49. 4. 1	山屋	山野神社	
	88	歴	鷗辺詩鈔の版木及び添え書簡	1揃	S49. 4. 1	高橋	中倉慶子	
89	歴	蘇民将来の版木	2点	S57. 1. 7	山屋	山野神社		
90	歴	文殊堂奉納算額	3点	S57. 1. 7	野中	野中		
91	歴	越後輿地全図	7枚	S59. 4. 2	胎内市	胎内市	文化13年	
92	登録	野澤家住宅主屋	1棟	H19. 5. 15	荒井浜	野澤サツキ	明治22年	
国登録	93	登録	荒惣店舗兼主屋・見世蔵・内蔵	3件	H29. 10. 27	本町	須貝隆	文政7年 明治34年 江戸後期
	94	登録	料亭 南都屋	1件	H29. 10. 27	本町	須貝真司、(株)南都屋	昭和4年
	95	登録	善良寺本堂・庫裏	2件	H30. 11. 2	西栄町	宗教法人善良寺	寛政6年・天明5年
	96	登録	藤木家住宅主屋・醤油蔵	2件	H30. 11. 2	桃崎浜	藤木康市	天保14年頃
	97	登録	三浦家住宅主屋	1件	R1. 12. 5	桃崎浜	三浦昭子	明治19年
	98	登録	荒川神社本殿・拝殿及び幣殿	2件	R1. 12. 5	桃崎浜	宗教法人荒川神社	天保12年
	99	登録	大輪寺本堂・庫裏・経蔵・土蔵・山門・総門	6件	R1. 12. 5	東本町	大輪寺	明治16年・大正9年 安政4年・昭和3年 江戸末期
	100	登録	旧伊藤家住宅土蔵・米土蔵・住宅作業場	3件	R1. 12. 5	黒川	胎内市	明治39年 江戸末期 昭和28年
	国選択	101	国選	警女唄 (小林ハル)	1人	S53. 3. 25選択 H17. 4. 25解除	熱田坂	小林ハル(故)

(資料：生涯学習課)

※種別の略語説明

建：建造物	古：古文書	史：史跡	考：考古資料	歴：歴史資料	工：工芸品
無民：無形民俗文化財	有民：有形民俗文化財	国選：国選択無形文化財保持者	登録：国登録有形文化財		
天：天然記念物	特天：特別天然記念物	彫：彫刻	絵：絵画	書：書籍	

※胎内市の指定文化財内訳 (全 91 件中)

国指定：7件	県指定：15件	市指定：69件
--------	---------	---------

※種別の内訳 (全 90 件中)

建：5件	古：2件	史：4件	考：28件	歴：8件	工：7件
無民：3件	有民：5件	国選：1件	登録：9件		
天：17件	特天：2件	彫：6件	絵：2件	書：2件	

ここに記した文化財の中には、公開していない物件や見学できない物件もありますので、詳細については胎内市教育委員会 生涯学習課にお問い合わせください。

文化財展示施設のご案内

奥山荘歴史館

奥山荘歴史の広場



【所在地】
胎内市あかね町107-10
☎0254-44-7737

【開館時間】
AM9:00～PM5:00
(開館日:土・日・祝日 4～11月)

【概要】史跡奥山荘城館遺跡江上館
(中条氏の15世紀代の居館)を復元整備。

【展示】奥山荘の歴史資料及び江上館等の出土遺物

【交通】電 車/JR中条駅から徒歩10分
自動車/日本海東北自動車道中条I.Cから10分 (P)あり

【料金】一般100円、団体70円
※高校生以下無料

桃崎浜文化財収蔵庫



【所在地】
胎内市桃崎浜上相子239-4

【概要】
幕末から明治初期の船絵馬86
点を収蔵。北前船の歴史や、当
時の廻船問屋の繁栄を知ること
ができます。

【展示】国重要文化財船絵馬・模型和船等を展示。

【交通】自動車/日本海東北自動車道荒川胎内I.Cから3分

【料金】一般100円、団体70円

◎観覧方法

観覧希望の方は、事前に生涯学習課 文化財係
(☎0254-43-6111)へ連絡が必要。

黒川郷土文化伝習館・粉食文化体験館



【所在地】
胎内市下赤谷387-15
☎0254-47-3000

【開館時間】
AM9:00～PM5:00
(休館日:毎週月曜日・12～3月)

【概要】胎内の自然、先史時代から現代までの歴史、郷土民俗資料、伝
統文化を紹介。縄文弓矢・火起し、古代食づくり体験実施。

【展示】1F 考古・近現代・自然・郷土芸能
2F 民俗・ごぜ唄(小林ハル)・羽越水害資料

【交通】自動車/日本海東北自動車道中条I.Cから15分 (P)あり「道の駅 胎内」

【料金】一般200円、小・中学生100円
※団体 一般150円、小・中学生50円

シンクルトン記念館



【所在地】
胎内市下館1622
☎0254-47-3260

【概要】日本書紀に、最古の原油献上地として登場。現在も原油が
湧出し、毎年7月に古式にのっとった燃水祭が行われてい
ます。史跡奥山荘城館遺跡臭水油坪・新潟県天然記念物。

【展示】古代から近現代までの原油採掘資料

【交通】自動車/日本海東北自動車道中条I.Cから15分 (P)あり

【料金】一般300円、小・中学生150円
※団体 一般200円、小・中学生100円

◎観覧方法

観覧希望の方は、事前に生涯学習課 文化財係
(☎0254-43-6111)へ連絡が必要。

柴橋地域ふれあいセンター 考古・民俗資料室



【所在地】
胎内市柴橋1155
(旧柴橋小学校)

【概要】柴橋地域ふれあいセンターは平成23年に閉校した柴橋小学校
を改装し、考古資料、民俗資料を紹介しています。

【展示】市内から発掘された縄文～中世までの考古資料400点と市民の
方から寄贈いただいた民俗資料200点を展示しています。

【交通】自動車/日本海東北自動車道中条I.Cから10分 (P)あり

【料金】無料

◎観覧方法

観覧希望の方は、事前に生涯学習課 文化財係
(☎0254-43-6111)へ連絡が必要。

胎内市美術館



【所在地】
胎内市下赤谷387-15
☎0254-47-2288

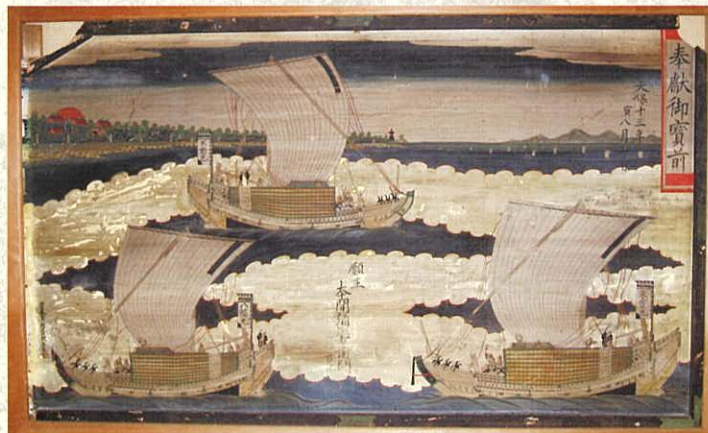
【開館時間】
AM9:30～PM5:00
(休館日:毎週月曜日)

【概要】郷土ゆかりの作家作品や、胎内市の太古から現代までの優れた美術品を
季節ごとに企画展示しています。景勝樽ヶ橋エリアの中にある木のやさし
さとアートを楽しむことができる美術館で、子どもから大人まで楽しめる
ワークショップも随時開催しています。

【展示】展示室A:企画展 展示室B:常設展 談話室:市民ギャラリー
ワークショップ開催

【交通】自動車/日本海東北自動車道中条I.Cから15分 (P)あり「道の駅 胎内」

【料金】一般300円、小・中学生150円
※団体 一般200円、小・中学生100円
年間パスポート 大人1,000円、小人500円
※黒川郷土文化伝習館との共通券 一般350円、小・中学生200円



Cultural Property of Tainai City

新潟県 胎内市教育委員会 生涯学習課
〒959-2807 新潟県胎内市黒川 1410 TEL : 0254-47-2711

発行 令和 2 年 (2020 年) 3 月 31 日 胎内市教育委員会